

『聖なる詐欺師たち』

～宗教に対する批判的考察～

憶測を事実のように見せかけ、
貴族が肥え太るために窃盗を正当化し、
部族に「聖なる遺産」という幻想を抱かせる——
それこそが、多くの宗教がもたらしてきた「贈り物」だ。
魂を心地よい甘い言葉で揺り動かし、
都合の良い神話で真実を覆い隠す。

無数の聖なる詐欺師たちが、
慰めの決まり文句で魂を欺き、
都合の良い神話で真実を覆い隠す。
イデオロギーを売りつけ、
人を酔わせるようなプロパガンダと魅惑的な嘆願を約束する。

あまりにも多くのペテン師が巧妙なごまかしや策略を用いて、
他者に自らの見解を信じ込ませようとする。

だが、立ち止まって考えてみよう。
彼らの教義の鎖という縛りの中に、
いったいどれくらいの真実が残っているだろうか？

- ミン:** (首を振り、口元に皮肉な笑みを浮かべながら) まるで誰かが、
俗世の説教壇から説教しているみたいだな。これは無神論への呼びかけか？
- アンドレイ:** (身を乗り出し、目に確信の光を宿しながら) 説教じゃないさ、カルロス。
これは単なる真実だ。「信仰」という名のもとに、あまりにも多くの闇がは
びこっている。
- 玲亜:** (酸っぱいブドウをむしゃむしゃ食べながら、一瞬ためらって) もし魂を何かに
縛りつけるなら、それが砂のように流動的なものではなく、揺るがぬ岩であることを、
しっかり確かめるべきだと思うわ。真の宗教は、疑問を恐れるべきではない。
- アンドレイ:** (目を細めて) そうだ。だが多くの場合、宗教は、公開された質問を恐れるんだ。
実際、宗教的信仰が思考の硬直化の主な原因だと恐れているよ。そして批判を
かわすために、巧妙な手段を使う。
- ティン:** (重いため息をつきながら) そんな必要は、本当はないのにね……。

- T Newfields (和訳:kikokun, ronpei, sugurunyan)

開始: 1995年 静岡市 完成: 2025年 静岡市